

▽▲ 会社紹介 伊勢湾フェリー株式会社 ▲▽

名古屋支部

◆会社紹介◆

伊勢湾フェリー株式会社が運航するのは、愛知県の県東部から突き出している渥美半島(愛知県を、横から見る形のカンガルーで表すと、その足の部分)の伊良湖港と、三重県鳥羽市の鳥羽港を、約1時間で結び、船内から伊勢湾の多島を堪能することができる定期航路です。

また、国道42号線および国道259号線として海上に引かれていることから、海上国道フェリーとも呼ばれています。海上国道フェリーは日本でも数カ所しかない貴重なフェリーで、「鳥羽丸」(三代)・「知多丸」(二代)・「伊勢丸」(二代)の3隻体制で運航しています。

◆伊勢湾フェリーの歴史◆

伊勢湾フェリー株式会社は、鳥羽市と伊良湖をつなぐ唯一のフェリー航路として、安全第一および地域の方々やお客様に愛されるべく安心、快適なサービスをさらに向上させ、日々発展を理念に営業し、地域住民に愛されています。

伊勢湾フェリー株式会社は、1964(昭和39)年4月4日に名古屋鉄道と近畿日本鉄道の共同出資により「伊勢湾自動車航送船株式会社」として設立され、同年の11月7日にクリーム色とピンク色のツートンカラーに塗装された初代「鳥羽丸」および初代「伊良湖丸」の2隻体制で鳥羽と伊良湖を結ぶ航路に就航しました。

1976(昭和51)年に、鳥羽と知多半島の師崎を結ぶ航路を開設し、初代「鳥羽丸」と名鉄海上観光船から「はまぎく」の2隻体制で営業運航が開始されました。

1993(平成5)年、鳥羽港の新旅客ターミナル完成に合わせて、ツートンカラーの船体を現在の水玉模様塗装。2005(平成17)年には「知多丸」・三代目「伊勢丸」が鳥羽と常滑(中部臨空都市)航路の運航を開始したことに伴い鳥羽～師崎航路が廃止。鳥羽～常滑航路も2007(平成19)年に廃止されました。

最盛期の伊勢湾フェリーは鳥羽をハブ港として、鳥羽～伊良湖、鳥羽～師崎、鳥羽～常滑運航していましたが、現在残っているのは鳥羽～伊良湖航路のみ。

当時の鳥羽～常滑航路は、リムジンバスがフェリーに乗ることで鳥羽駅から中部国際空港の直行便もあり利便性があったそうです。

2010(平成22)年3月、同年9月末で鳥羽～伊良湖航路は廃止し、会社も清算すると発表したことから「鳥羽伊良湖航路対策協議会」が開催され、鳥羽～伊良湖航路存続に向け、協議が行われました。その結果、同年10月、愛知県、三重県、田原市、鳥羽市からの支援を受け、名鉄・近鉄グループから脱却し、新しい体制での事業が開始され、現在の姿となっています。

◆鳥羽港◆

鳥羽市は、三重県の南東部に位置し、西を伊勢市、南を志摩市に接しています。北と東は海に面し、太平洋と伊勢湾を分ける位置にあり、海岸線の一部はリアス式海岸に面していることから、市域全体が伊勢志摩国立公園に指定されています。

鳥羽フェリーターミナルへは、名古屋駅から車で約2時間、電車では近鉄名古屋駅から最寄り駅の中之郷駅まで約1時間40分で着きます。

主な産業は、観光業となっており、志摩マリンレジャーのイルカ島や遊覧船、隣の伊勢市には伊勢神宮、志摩市には賢島エスパーニャクルーズなどがあり、海や山といった自然を感じたい方にぴったりの観光地となっています。

観光都市である鳥羽の駅周辺には飲食店や喫茶店があり、生き残りをかけた大盛定食の「キッチンたかま」はいろいろなテレビやYouTubeに取り上げられ、観光客に大人気となっており、店内にはサインがたくさんあります。

鳥羽フェリー乗り場には、お土産が何でもそろそろ売店、レストラン、喫茶コーナー、観光情報コーナー、ツジモト真珠店などがあり、バリアフリー化されています。2階のペランダは、海に面していることもあり、入出港するフェリーを見ながら気持ちのいい潮風を全身に浴びることができるので、フェリーの待ち時間があっても楽しめます。

鳥羽市の横の市にある伊勢神宮は、三重県の観光スポットとして、毎年多くの参拝者が訪れます。お伊勢参りは、現代は江戸時代と比べ比較的簡単に参拝できますが、当時は東京から片道15日、お金も莫大にかかり、民衆には憧れのものだったそうです。

内宮近くにあるおかげ横丁には50余りの店が連なり、伊勢名物の赤福餅や伊勢たくわん、さつま揚げ、伊勢うどんなどが売られ、食べ歩きにもってこいの場所です。そんな伊勢神宮は、鳥羽市からも近く、車で約20分の距離です。その道中には、夫婦岩があり、伊勢神宮にまつわる岩であることから、伊勢神宮に行く前に、夫婦岩で体を清め、伊勢神宮にお参りに行く観光客もいます。また、その周辺には、夫婦岩ミュージアムや伊勢夫婦岩ふれあい水族館シーパラダイスがあります。

夫婦岩ミュージアムでは、ショッピングや伊勢型紙染付体験など伊勢神宮にまつわる体験ができ、カップル

のほかお子様がいるご家族にも人気のスポットになっています。水族館シーパラダイスでは、トドやセイウチ、カワウソなどと触れ合え、アシカハトレナーになった気分です実際に指示を出すなど、いろいろな体験をすることができます。夫婦岩ミュージアムの横にあるため、買い物もでき、伊勢市では有名な観光施設となっております。

◆航路について◆

伊勢湾フェリーは、時期に応じてダイヤを決定しており、少ない時期でも朝8時10分から17時40分の間に8便を運航しており、鳥羽～伊良湖間を約1時間で結んでいます。

フェリーが鳥羽港を出港すると、右手にミキモト真珠島が見えてきます。島内は、ミキモトの博物館になっており、建物や松が整備され美しいため、大変多くの方が写真を撮っています。少し船が進むと、左手の方に三ツ島が見えてきます。三ツ島の由来通りに小島が一直線に3つ並んでおり、奥の方に見えてくるのは日向島で、イルカ島として知られています。イルカ島は、名前から気が付く方がいると思いますが、島内でイルカ、アシカ、リクガメ、カワウソ、熱帯魚などを飼育しており、イルカやアシカは目の前でショーを見ることができ、他の水族館とは違う迫力を感じられます。イルカ島は島内が昭和のレトロな感じで、ビーチなどもあるため、ゆっくり時間が流れるのを楽しめる島となっています。

イルカ島が見えた時には、出航の際に前方にあった坂手島が右側にあり、菅島、答志島が見えてきます。この三島は有人島で、鳥羽マリンターミナルの鳥羽市営定期船がつないでいます。三島を合わせた人口は約1600人であり、島の一部の森が切り開かれ町があるようすは、美しく見えます。また島の周辺では、主に黒海苔の養殖をしており、ここで採れた海苔は、有名な産地の海苔と引けを取らないほど美味とされています。

一方、フェリー内の売店コーナーは充実しており、冒頭の切り絵御船印は伊勢湾フェリー船内でしか販売していないため、人気の商品になっています。売店以外にもボックス席や、座敷席、オープンデッキなどあり、1時間の船旅があっという間に感じられます。オープンデッキは、風を正面から受け、船特有の揺れを感じるので、乗船した際は、ぜひオープンデッキに足を運んでみてはいかがでしょうか。

◆神島◆

鳥羽港を出航して約40分。答志島・菅島を過ぎると、次は神島が見えてきます。神島東方の海岸は、石灰岩が風化してできた鳥羽市指定の天然記念物カルスト地形。石灰岩が波浪や雨水などで浸食されてきた神秘的な自然現象で、船内から見る白く輝く波浪と青い空のコントラストは壮観です。

神島はその名が示すように、古くより神が支配する島と信じられ、島内にある八代神社には古墳時代から室町時代にわたる神宝が残り、国の重要文化財も多く残されています。神社は海の神様である綿津見命を祀る神社で、元旦祭や天皇祭には島民の大半が参拝するほか、毎日お参りする島民もいるそうです。

元日のゲーター祭が有名であり、グミの木の枝を直径2mほどの輪にしたものを、島の方たちが御幣をつけた長い竹で、2mの高さに掲げる祭りです。輪は太陽がモチーフとされており、真冬に太陽の威力が弱くなり、光も力弱く衰えている太陽に、元氣と活力を復活させようとする迎春の勇壮なお祭りです。

また、神島島内は、三島由紀夫の代表作の潮騒の舞台としても有名で、島内は映画化のロケ地となっていたため、観光客も訪れています。物語に登場した監製哨跡や八代神社は現在も残っており、潮騒の世界にどっぷり浸かることができます。

9月から10月にかけては、サシバ(タカ的一种)をフェリーからでも見ることができ、風景写真を撮影するのにも適しています。そのため、1時間の乗船時間はあっという間に感じられ、旅行の際に、船に乗る体験ができることから、お子様はいい経験ができ、大人もリラックスできます。

◆渥美半島◆

渥美半島は、三河湾、伊勢湾、太平洋と3方向から海に囲まれており、黒潮の影響で冬でも温暖な気候に恵まれ、キャベツや電照菊、大あさり、のりなど農水産業が栄えています。また、蔵王山や半島最高峰の大山(標高328メートル)を擁するなど、海と山の豊かな自然に恵まれている地域です。また、太平洋側には、海食崖を形成しており、日出の石門は、太平洋の荒波の浸食により真ん中が洞穴となっており、その名の通り日の出の時に美しいシルエットを見せてくれる有名な観光地になっています。

渥美半島の先端に位置する伊良湖港は、伊勢湾フェリーだけでなく、名鉄海上観光船も発着しています。

伊勢湾フェリーの切符売り場がある、伊良湖クリスタルポルトには、観光案内所、お土産物・産直販売コーナー、飲食コーナーがあり、渥美半島で取れた地元の果物や野菜なども販売しているほか、レンタカー・レンタサイクル・電動バイクの貸出等もありちょっと遠くの観光スポットに行くのにとっても便利な仕様になっています。

伊良湖港から、徒歩で10分ほどのところに、伊良湖岬灯台があります。1929(昭和4)年に設置された伊良湖岬灯台は、日本の灯台50選にも選ばれており、伊良湖水道付近における航行情報を提供している伊勢湾マーチスがあり、海の安全を見守っています。

また、伊良湖岬灯台の周辺には万葉の歌碑や日本の百選モニュメントがあり、近くの恋路ヶ浜は、島崎藤村が執筆した「名も知らぬ 遠き島より流れよる 椰子の実ひとつ」という詩でも有名で、その名前ゆえに、「幸せの鐘」や「願いがかなう鍵」などあり、愛知県でも有数のデートスポットとして、日本各地からカップルが集まっているそうです。

その他、日本一の花の生産地としても知られる田原市。ホームページに大きくサイクリングについて掲載されているほど、町中にはたくさんのサイクリングロードが設置され、特に渥美半島の南部には、菜の花畑や絶景の中を走るサイクリングロードがあり、自転車を止め、見入ってしまうようなところもあります。

「海員だより」